

**【規格名（和名）】**

ICD10 対応標準病名マスター

**【規格名（英名）】**

ICD10-based Standard Disease Code Master

**【規格の目的、概要】**

ICD10対応標準病名マスターは、収載された傷病名の単位でも情報共有可能な、標準的な傷病名で構成されています。

レセプト電算処理システムの傷病名マスター（社会保険診療報酬支払基金）と統合作業を行い、2002年6月に統一病名マスターとしてICD10対応標準病名マスター Ver2.10をリリースしました。続いて2003年4月には、修飾語マスター（社会保険診療報酬支払基金）との連携がなされました。

編纂に当たっては、医学的な問題については各分野の専門医・関連医学系学会に照会を行い、ICDコーディングについては厚生労働省ICD室の監修を受けています。ICD10 対応標準病名マスターは、「病名基本テーブル」「修飾語テーブル」「索引テーブル」で構成されています。

「病名基本テーブル」は、各病態に原則として1つずつ決められた「病名表記」から構成されるテーブルで、標準病名マスターの基本となるテーブルです。「病名表記」は、いわゆるリードタームです。ある病態を代表するに最もふさわしいと考えられる傷病名を「病名表記」としています。

「修飾語テーブル」は、病名基本テーブルに収載された「病名表記」に付加して利用するための修飾語を集めてあります。

「索引テーブル」は、「病名表記」の同義、類義語や修飾語、異字体などから、「病名表記」または「修飾語表記」へ支障無く誘導できるように用意されたテーブルです。

**【規格の適用領域】**

電子カルテ、オーダーエントリーシステム、医事システム などにおける、病名入力およびICD10・レセ電算コードなどのコーディングに適用されます。基本マスターによる病名コード検索に加え、修飾語付加による病名造語・病名索引情報による同義・類義語による検索をサポートします。

**【関連他標準との関係】**

レセプト電算処理システムの傷病名マスターおよび修飾語マスターとは、見出し語および各種コード情報の連携がなされ、実質的に同一の病名マスターとなっています。ICDコードは原則としてICD10

(International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems 邦訳「疾病、傷害および死因統計分類提要」)に記載されたコーディングルールに従っています。

**【規格の入手方法】**

一般財団法人医療情報システム開発センターの標準病名マスターのホームページ (<http://www2.medis.or.jp/stdcd/byomei/>) からダウンロード入手可能。また、CD-ROM媒体での入手も可能。

**【メンテナンス状況】**

標準病名マスター作業班により、年4回のバージョンアップ(6/1、10/1、1/1、3/1)を行っています。

**【現在の改版状況】**

2011年6月1日現在、Ver3.00 となり、

病名基本テーブル	22,990 件
修飾語テーブル	2,094 件
索引テーブル	92,000 件

を収載しています。